

令和5年度（令和4年度分）

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和5年9月

山鹿市教育委員会

目 次

1	はじめに	1～2
	(1) 点検及び評価の趣旨	
	(2) 点検及び評価の対象	
	(3) 点検及び評価の方法	
	(4) 総合評価の方法	
	(5) 山鹿市教育委員会名簿	
2	施策の体系（第4次山鹿市教育振興基本計画体系図）	3
3	施策評価調書	
	【基本方針Ⅰ】「ひと輝く」	4～11
	【基本施策Ⅱ】「きずな結ぶ」	12～20
	【基本施策Ⅲ】「みらい彩る」	21～22
4	教育委員会の主な活動状況	23～24

1 はじめに

(1) 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正が改正され、教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

この報告書は、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、本市教育委員会が行った主な施策・事業の実績について点検・評価としてまとめたものです。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検及び評価の対象

令和5年度に点検及び評価を行う事業は、第4次山鹿市教育振興基本計画の基本方針に基づき山鹿市教育委員会が実施した主な取組施策19事業としました。

(3) 点検及び評価の方法

ア 教育委員会が取組む施策の体系ごとに、各事務事業担当課が「施策評価調書」を作成し、具体的な事業指標を用いながら、客観的な視点から評価及び課題の分析を行い、今後の事業に活かすものとします。

イ 事務局が作成した「施策評価調書」について、学識経験等を有するもので構成する山鹿市教育基本計画推進委員の意見を聴取したうえで、教育委員会において点検及び評価を行います。

ウ 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を山鹿市議会へ提出します。また、報告書は市ホームページで公表するものとします。

(4) 総合評価の方法

以下の評価基準に基づいて評価しました。(主な施策取組み内容と成果及び成果指標達成率を総合的に判断し、下記の評価区分により評価を行う。)

評価区分	評価基準	評価結果に基づく改善等の考え方
A	目標を達成できた。 または十分な成果を得ている。	・現状どおり事業継続(拡充を含む)していく。 ・当初の目的を達成し、事業が完了した。
B	概ね満足な成果を得ている。または目標達成に向けて進んでいる。	・概ね目標は達成できているが、必要に応じて事業内容等の見直しを検討する。
C	ある程度の成果を得ている。または目標達成に向けて多少の成果を上げている。	・目標達成に向けて、事業規模・内容等の改善検討が必要。
D	満足のいく成果は得られなかった。または目標の達成は困難である。	・事業実施の効果が薄い。 ・実施方法等の抜本的な見直しが求められる。

(5) 山鹿市教育委員会名簿 (令和5年9月1日現在)

職名	氏名	任期
教育長	堀田 浩一郎	R 5. 4. 1 ~ R 8. 3. 31
委員 (教育長職務代理者)	野中 米里	R 5. 4. 1 ~ R 9. 3. 31
委員	上田 三貴子	R 2. 4. 1 ~ R 6. 3. 31
委員	野口 法子	R 4. 4. 1 ~ R 8. 3. 31
委員	立山 和宏	R 3. 4. 1 ~ R 7. 3. 31

2 施策の体系(第4次山鹿市教育振興基本計画体系図)

教育大綱で示す3つの基本方針について、基本目標を定め、目標ごとに取り組むべき主な19の施策を掲げています。なお、目標に対して施策が重複する場合は、再掲と表示しています。

基本方針	基本目標	主な取組施策		
基本方針Ⅰ 「ひと輝く」 受け継がれてきた、かけがえのない「命」を輝かせる教育を目指します。	自他の命を大切にす教育の推進 確かな学力と健やかな体の育成	Ⅰ-1	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実	
		Ⅰ-2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進	
		Ⅰ-3	情報教育の推進	
		Ⅰ-4	生涯スポーツの振興	
		Ⅰ-5	「ハンドボールの街やまが」の推進	
		Ⅰ-6	学校施設の整備・充実	
		Ⅰ-7	社会体育施設環境の充実	
	多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成	Ⅰ-8	学校規模の適正化	
		(再掲) Ⅰ-1	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実	
基本方針Ⅱ 「きずな結ぶ」 学びを支え、学びを軸につながりを広げる生涯学習の向上を目指します。	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進	Ⅱ-1	子どもたちの郷土愛と誇りを育む	
		Ⅱ-2	文化財の保存と活用	
		Ⅱ-3	博物館展示等の充実	
	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実	Ⅱ-4	生涯学習の推進	
		Ⅱ-5	文化団体の育成支援	
		Ⅱ-6	読書活動の推進	
		Ⅱ-7	公民館活動の推進	
		子育て世代の育児支援と健やかな成長応援	Ⅱ-8	保護者の就労支援への取組
			Ⅱ-9	子ども・子育て世代への包括的な支援
基本方針Ⅲ 「みらい彩る」 広い視野を持って、主体的に行動する人材の育成を目指します。	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成	Ⅲ-1	山鹿創生塾	
		(再掲) Ⅰ-2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進	
		(再掲) Ⅰ-3	情報教育の推進	
	SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成	(再掲) Ⅰ-2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進	
		(再掲) Ⅲ-1	山鹿創生塾	
	豊かなコミュニケーション能力の育成	Ⅲ-2	国際理解教育の充実	
		(再掲) Ⅱ-6	読書活動の推進	

3 施策評価調査

山鹿市教育振興基本計画の施策体系に沿って、令和4年度に重点的に取り組んだ事務事業の状況とその評価を行い、今後の取組の方向性を示しました。

施策評価調査

担当 部課	教育部	学校教育課(教育総務課)
----------	-----	--------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	自他の命を大切にする教育の推進 多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成
施策名	I-1 子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実		
施策の目的	子どもの居場所を確保するとともに、様々な課題を抱える子どもたち一人一人の教育的ニーズに対して、適切な支援を丁寧かつ継続的に行うことで、不登校やいじめがゼロに近づき、障がいの有無に左右されず全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備する。		

1 事業の内容と成果等

事業名	不登校対策事業・特別支援教育充実事業・スクールソーシャルワーカー配置事業
取組内容	<p>①不登校対策事業 ・不登校の児童生徒や登校渋りを見せる児童生徒に対して、教育支援センター(適応指導教室)を設置し、児童生徒一人一人の状況に応じた適切な指導や学習援助を行った。また、関係機関との連携を図るとともに、家庭への巡回訪問を実施した。 ・中学校5校全てに対し、不登校未然防止対策としてサポートティーチャーを配置し、授業や学校生活において個別指導や支援を行った。</p> <p>②特別支援教育充実事業 通常学級に在籍する障がいのある児童生徒や、特別支援学級に在籍する児童生徒に対して、サポートティーチャーを配置し、担当教諭と協議しながら個々の状況に応じた支援を行った。</p> <p>③スクールソーシャルワーカー配置事業 精神保健福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめや不登校といった課題を抱える児童生徒に対する心のケアのみならず、学校、家庭、関係機関との連携を密にし児童生徒を取り巻く環境の改善に総合的に取り組んだ。また、解決困難な課題に対してはケース会議や校内研修等への参加を通して、指導助言を行った。</p>
成果	<p>①不登校対策事業 本事業による個に応じた丁寧な取組や教育支援センターと学校との連携により、学校には足が向かないが教育支援センターでは過ごすことができるようになった児童生徒や、学校に復帰し教室に入室することができている児童生徒も見られた。</p> <p>②特別支援教育充実事業 特別な支援を要する児童生徒が、通常学級での授業を望む場合の合理的配慮や適切な支援のために、サポートティーチャーは欠かせない存在になっており、学校から配置を望む声も多い。現在17名の特別支援教育対応のサポートティーチャーを配置し、課題解決に向けた取組が充実してきている。</p> <p>③スクールソーシャルワーカー配置事業 児童生徒を取り巻く環境や必要な手立てを整理し、家庭と学校や専門機関をつなぐことで、情報整理や情報共有ができ、正しい児童生徒の理解や児童生徒が抱える問題の早期解決につながった。</p>

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			1	不登校児童生徒数 (100日以上欠席) ※病気、経済的理由を除く	人	25	24% (①/②)		
2	学校は楽しいと感じる児童生徒の割合 ※熊本県公立学校「心のアンケート」調査結果	%	91.1	93%					98.0

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターを利用している児童生徒の進路保障(学力保障)については、さらに学校との連携が必要である。 ・中学校卒業後、高校生活になじめない生徒が見られる。 ・心のケアを必要とする児童生徒や家庭のニーズが多様化している。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターや家庭で学習する児童生徒のために、タブレットを利用したオンライン授業の支援を進める。 ・中学校から高等学校等への引継ぎを丁寧に行い、卒業後の見守りや進学先・就職先等との連携を密にしていく。 ・一人一人の児童生徒の将来の社会的自立に向けて、スクールソーシャルワーカーを活用し、教育支援センター・医療機関・福祉関係機関との連携を深めていくとともに、サポートティーチャーの確保と専門性の向上を図る。
総合評価	<p>(評価の理由)</p> <p>B 中学校の長欠生徒の状況がなかなか改善できず、結果的に不登校生徒数が厳しい結果となったが、一人一人の状況把握や適切な配慮、支援の提供を継続的に行うことができた。サポートティーチャーやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力と学校の努力により、児童生徒の「孤立」を防ぐ取組ができている。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	学校教育課(教育総務課)
----------	-----	--------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
			SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施策名	I-2 生きる力を育む質の高い授業づくりの推進		
施策の目的	次世代を担う子どもたちが、予測困難な社会の中でも夢や学ぶ意欲をもち、課題に対して主体的に考え、他者と協働しながら粘り強く解決に向かっていく力を育成する。		

1 事業の内容と成果等

事業名	学校教育推進事業
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度学校教育指導の重点に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「学び合い」と「まとめ」を大切にした授業の充実を掲げ、授業づくりについて指導室全体で方向性を揃えて指導や助言を行った。 校務改革、授業改革の推進を図るために、教職員を対象に役職・経験年数・教科ごとの研修、幼保小中が連携した研修を実施し、学校の課題を全職員で共有し、同じ方向性で取り組むように指導、助言を行った。 児童生徒1人1台のタブレット導入に合わせて、教職員に対するICT研修を企画した。学校や教職員の実態に応じて、効果的なタブレット活用につながるよう研修内容を工夫した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染対策で制限のある中で、各学校が授業時数の確保や指導方法に工夫を重ねながら授業を行うことができた。 授業を構想するにあたり、単元終了時の子どもの姿、単元を通した学習課題等を大切にしていきたい項目として共通して掲げることにより、各学校で共通実践が可能となった。 計画的、効果的にICTを活用している教職員が増加し、ICTの効果的な活用による深い学びを実感している児童生徒が9割を超えることとなった。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	熊本県学力学習状況調査平均正解率を上回る学校の割合(小学校：国語・算数、中学校：国語・数学)	%	83.0	90%					92.0
2	「主体的・対話的で深い学び」の中で自ら課題を解決できている児童生徒の割合	%	92.3	103%					90.0
3	ICTの効果的な活用により深い学びを実現していると答えた児童生徒の割合	%	92.2	102%					90.0

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 校務改革の一環で校内研修の時間も限られている中、教職員間で授業を磨きあう時間の確保が必要である。 ICTの利用が、主体的・対話的でより深い学びにつながっていくような研究が必要である。 家庭学習におけるタブレット活用に学校間格差が見られる。 タブレットの活用が日常的になる中、破損も増えている。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 授業が児童生徒の主体的な学びとなるよう、学校教育支援員による指導や学校訪問、研修会等で重点的に指導する。特に、校内の研修が活性化するように、研究主任や情報教育リーダーの研修を充実させる。 タブレットの家庭への持ち帰りを促進し、個に応じた家庭学習課題の与え方について研究していく。 タブレットの取扱い方法について、再度共通理解を図っていく。
総合評価	<p>A</p> <p>(評価の理由) コロナ禍においても、各学校が授業時数の確保や指導方法に工夫を重ねながら授業を行い、タブレットの導入についても研究を積み重ねたことで、授業改善が進み、児童生徒にとってわかりやすい授業へと進化している。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	学校教育課(教育総務課)
----------	-----	--------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
施策名	I-3 情報教育の推進		
施策の目的	新学習指導要領の着実な実施に加え、ICT機器の活用による教育の情報化を通して、児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら主体的に学ぶ姿勢を育成する。		

1 事業の内容と成果等

事業名	教育情報化推進事業
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校の課題解決を図るための支援訪問を積極的に行い、教師の指導力向上に向けた指導助言を行った。 山鹿市全体で授業の質の向上に努めるため、校長会議を中心に山鹿の教育課題を明確にして共通実践を図った。 児童生徒1人1台のタブレットを有効活用するために、教職員のニーズに合った研修を行った。 山鹿市の全ての学校で、学校情報化認定優良校を目指して取り組んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 経験の浅い教職員のニーズに合わせて授業力向上につながるアドバイスを行うことにより、教職員の授業改善への意欲が高まった。 校長会議で共通理解した内容を市小中学校全体で共通実践ができた。 タブレットの活用については、教科の授業だけでなく、特別活動や委員会活動等でも利用が進んだ。 学校情報化認定優良校となった学校が小中合わせて10校になった。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			1	学校情報化認定優良校の小・中学校数 ※日本教育工学協会 (JAET)	校	10	91%		
2	児童生徒一人当たりの月平均タブレット 通信量	GB	2.14	71%					3.00

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校によって、ICT機器の使用時間やタブレット端末の使い方、家庭学習の内容に少し差が生じてきている。 児童生徒の端末の使い方で近隣地域では重大な問題が起こっており、情報モラル教育を効果的に進めていく必要がある。 導入した授業支援アプリ (MetaMoji) の利用が伸び悩んでいる。 学校情報化優良校の認定ができていない学校が3校ある。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末について、授業の中で「効果的に使われているか」を再度検討し、学校訪問や研修で助言していく。 情報リーダー研修の中に、技能面だけでなく情報モラルに関する研修を取り入れていくとともに、複数の教職員が参加できるICT利活用研修を開催していく。 学校情報化認定優良校となっていない学校に対し、県立教育センター等と連携して専門的アドバイスを行っていく。
総合評価	<p>(評価の理由)</p> <p>B タブレットの効果的な活用や授業改善も進んでおり、教職員の自主的な研修も活発に行われた。学校情報化認定の優良校になった学校が10校になった。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会体育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施策名	I-4 生涯スポーツの振興		
施策の目的	市民のニーズが多様化する中、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツに親しむことができる環境づくりが求められている。また、スポーツ推進委員による地域スポーツの活動推進と体育協会、やまが総合型スポーツクラブなどの関係団体の組織力強化と競技力向上のための支援を行い、市民の健康増進と生涯スポーツの普及を図る。		

1 事業の内容と成果等

事業名	生涯スポーツ推進事業
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツの「モルック」はフィンランドの伝統的な遊びを元に考えられたアウトドアスポーツで、子どもからシニア、足腰の不自由な方までみんなで楽しめるユニバーサルスポーツとして急速に普及している。令和4年度においては、正規品5セット、自作品10セットを揃えて、スポーツ推進委員の地域事業と併せて地域への普及に取り組んだ。 ・小学校運動部活動の社会体育移行に伴うアクティブチャイルドプログラム(ACP)活動を市内の小中学校に周知し、希望する小中学校に指導員を派遣し実施した。 ・体育協会が主催する「山鹿市駅伝大会」や協会会員の親睦を目的として新たに計画した「親睦ゴルフ大会」などを実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員協議会(鹿央支部)による米野岳中学校生徒へのモルックの研修会を開催するとともに、高等学校からの求めに応じ用具の貸与を行った。 ・アクティブチャイルドプログラム(ACP)は6小学校13クラスより想定以上の希望があり、社会体育指導員とオムロンピンディーズの協力の下、延べ56回の実施に至った。 ・山鹿市駅伝大会は、コロナ感染拡大により当日棄権があったものの、12チームが参加し実施することができた。なお、協会親睦ゴルフ大会は、鹿央ゴルフクラブで、35人の参加があった。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	-	-	/	/	/	/	65.0
2	体育協会会員数	人	3,641	93%	/	/	/	/	3,900

3 課題と今後の展開・評価等

課題	幅の広い生涯スポーツ推進事業の中で、現在実施しているニュースポーツの普及、アクティブチャイルドプログラムの実施及びスポーツ組織・団体の支援について継続して実施していく必要がある。中でも、アクティブチャイルドプログラムの実施は、児童の健やかな体を育むために重点的に取り組む必要がある。
今後の展開	「山鹿市スポーツ推進計画」を基に、課題に挙げた事業を最優先に取り組み継続して実施する。あわせて、スポーツ組織・団体の活動支援や加入促進、健康づくり関係部署と連携を図りながら、スポーツ活動に取り組める環境づくりに努める。
総合評価	<p>B (評価の理由)</p> <p>コロナ感染拡大の中にあっても、前年度に比べ計画していた活動も実施することができた。特に、アクティブチャイルドプログラム(ACP)については、オムロンピンディーズと連携を図ることができ、小学生にスポーツへの関心と体力づくりや健康づくりに繋げることができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会体育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施策名	I-5 「ハンドボールの街やまが」の推進		
施策の目的	オムロンハンドボール部が本市に拠点を置き、オリンピックにも選手を輩出していることから、オムロンハンドボール部と連携した教室や大会を継続して開催し、競技力の向上やスポーツの推進を図り、他の競技にも波及する取組を展開していく。		

1 事業の内容と成果等

事業名	スポーツ推進事業・アスリート育成事業
取組内容	<p>①スポーツ推進事業 山鹿市で開催される日本ハンドボールリーグホームゲームを市民に周知し、試合観戦及び応援の動員を促進した。</p> <p>②アスリート育成事業 オムロンハンドボール部と連携し、市内小学6年生を対象としたハンドボール教室を展開し、興味関心を持つ環境をつくり、競技普及を図った。</p>
成果	<p>①スポーツ推進事業 オムロンハンドボール部と連携し、山鹿市で行われる日本リーグホームゲームの開催にあたり職員への周知及び山鹿メイトを活用して市民への周知を行うことができた。 なお、令和5年2月18日に行われた第16戦(ザ・テラスホテル戦)は、「超満員祭」と位置づけて、オムロン選手による市役所庁舎出入口でのピラ配りやイベント情報等の積極的な配信を行った結果、当日は、1,118人の応援があった。</p> <p>②アスリート育成事業 継続して実施している小学生を対象としたハンドボール教室をオムロンハンドボール部に委託を行い、全9小学校を対象に26回の指導を行った。 なお、小学生6年生を対象として行ったハンドボール大会は、全小学校431人の参加があった。</p>

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	ハンドボール競技人口	人	340	76%					450

3 課題と今後の展開・評価等

課題	小学生を対象としたハンドボールの指導や大会を行うことで、ハンドボール競技への魅力が伝わり、クラブチームへの加入は増加しているものの、中学校ハンドボール部員の減少が目立っている。中学校部活動の地域移行協議と併せて、ハンドボール指導体制などオムロンハンドボール部と連携し取り組む必要がある。
今後の展開	今まで取り組んできた日本ハンドボールリーグホームゲームの周知や小学生を対象としたハンドボール教室や大会は、継続して開催する。なお、課題である中学校部活動の指導体制についても、令和5年度から行う中学校部活動の検討会議において具体的に協議を開始する。
総合評価	<p>(評価の理由)</p> <p>B 小学生を対象としたハンドボールの指導及び市内小学生ハンドボール大会は、オムロンハンドボール部の協力もあり、予定どおり実施でき小学生の体力向上やハンドボール競技者の増加に繋げることができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	教育総務課(学校施設課)
----------	-----	--------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施策名	I-6 学校施設の整備・充実		
施策の目的	学校施設の老朽化対策は、令和2年度に策定した「山鹿市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えを行いながら、安全安心で、かつ、質の高い教育環境の整備を図る。		

1 事業の内容と成果等

事業名	安全・安心な学校づくり事業・学校施設環境改善事業
取組内容	<p>①安全・安心な学校づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡小学校屋内運動場建設外工事 工事を発注し、施工業者を決定した。安全面に配慮しながら、工事を進めている。 <p>②学校施設環境改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室改修工事 大道小における特別な支援を必要とする児童数の増加に対応するため、校舎1階のひまわりホールを特別支援教室として、3階のパソコン室を多目的教室として改修した。 ・LED照明化工事 山鹿小学校と鹿北小校舎の蛍光灯をLED蛍光灯に交換した。
成果	<p>①安全・安心な学校づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化により危険建物となった屋内運動場の建て替え及び校舎改修に向け、工事に着手することができた。 <p>②学校施設環境改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・35人編成となる普通学級や増加する特別支援児童に対応するため、校舎内の余裕スペースを活用(改修)することで必要とする教室数を確保することができた。 ・蛍光灯をLEDに交換することで、CO2の排出量の削減や経費の削減など、SDGsの目標7「エネルギー」、目標12「持続可能な消費と生産」、目標13「気候変動」に関する取り組みができた。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率①/②	実績値②	達成率①/②	
1	防犯カメラ設置校数	校	0	0%					11 (2校は設置済)
2	校舎LED照明整備校数	校	2	20%					10 (3校は設置済)

3 課題と今後の展開・評価等

課題	コロナ禍やウクライナ情勢の悪化による原油価格の高騰や原材料不足による物価高騰の中、老朽化が進む学校施設について、長寿命化計画に基づく優先順位を考慮しながら、施設整備を行う必要がある。
今後の展開	長寿命化及び老朽化対策工事との調整もあり、防犯カメラについては、令和5年度から随時設置していく。また、校舎照明のLED化についても計画的に整備を行い、全小中学校のLED化を実施していく。
総合評価	<p>B (評価の理由)</p> <p>八幡小屋屋内運動場について、当初の入札が不落となったが、資材単価の見直し等により無事に落札され、令和4年度内に工事に着手することができた。</p> <p>LED照明については、資材不足の影響もなく、年度計画に基づき工事を完了することができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会体育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施策名	I-7 社会体育施設環境の充実		
施策の目的	本市の社会体育施設は、建築後耐用年数を経過した施設が多く、本体の老朽化や設備の経年劣化による維持管理費の増大が懸念されている。そのため、本市の個別施設計画に基づき、費用対効果や地域における施設配置の状況を検証しながら、カルチャースポーツセンターを核とした第3次社会資本整備計画を推進し、社会体育施設環境の充実を図る。		

1 事業の内容と成果等

事業名	カルチャースポーツセンター長寿命化事業
取組内容	カルチャースポーツセンターは、躯体コンクリートの劣化が激しく防水機能が低下していることから、カルチャースポーツセンターの長寿命化事業として集中的に改修工事を行った。 改修の主なものとして、総合体育館第1アリーナの屋上防水工事、市民球場内のベンチ等改修工事及び塗装工事を行った。
成果	カルチャースポーツセンターの長寿命化事業については、令和2年度から着工し、令和4年度の市民球場改修工事で完了した。市民球場は建設後30年ほどを経過しており、老朽化が目立っていたが、改装により安全で快適な施設となった。 また、長寿命化を終えた総合体育館において、ハンドボールや柔道などの各種大会及び合宿も開催された。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	社会体育施設利用者	人	281,514	64%					440,000

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> カルチャースポーツセンターの長寿命化事業は完了したが、老朽化が進み、又は解体時期を迎えた社会体育施設が多い。 カルチャースポーツセンターは大会誘致のほか、市民の余暇活動や健康づくり、生涯スポーツの拠点として更なる利用促進を図るため、空きスペースを活かした整備や設備の改修を検討する必要がある。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 市民や利用者のニーズ、大会等の誘致に対応するため、既存施設照明のLED化など計画的に事業を実施し、老朽化により解体時期を迎えた社会体育施設についても、地元の意見を踏まえながら今後の取扱いについて検討を進める。 利用者が安全に利用できることを優先して、第3次社会資本整備計画に基づき継続して整備を進めていく必要がある。
総合評価	<p>(評価の理由)</p> <p>B</p> <p>市民球場の改修工事による休場期間もあり年間延べ利用者数は成果指標の目標値を下回ったものの、長寿命化事業を計画どおり完了したことにより、利用者の安全かつ快適な施設利用につなげることができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	教育総務課(学校施設課)
----------	-----	--------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成
施策名	I-8 学校規模の適正化		
施策の目的	少子化が進む中で、児童生徒にとって望ましい教育環境の整備・充実を図るため、「山鹿市立小・中学校規模適正化基本計画第2次計画」に基づき、再編計画の最後となる山鹿小学校・平小城小学校・三岳小学校の統合について令和5年4月を目標に、統合準備委員会等を通じて円滑に進むよう取組む。		

1 事業の内容と成果等

事業名	小・中学校規模適正化事業
取組内容	<p>令和5年4月を目標に平小城小学校・三岳小学校を山鹿小学校に編入するため、児童交流・遠距離通学対策・PTA会則の見直しなどの協議に向けて、令和4年6月に第3回統合準備委員会を開催し、各専門部会における今後の協議スケジュールと検討内容を提示し了承を得た。</p> <p>その後、各部会において協議・検討を続け、令和5年2月に第5回統合準備委員会を開催し、各部会の取組結果について報告を行い、遠距離通学対策やPTA会則の見直しについて承認を得た。</p> <p>統合準備委員会の開催及び各部会の協議・検討により、令和5年度の統合のために必要な課題解消を図った。</p>
成果	<p>統合準備委員会及び各専門部会を開催し、スクールバス・タクシーのルートや乗降所の決定、PTA会則の一部改正、3校の交流行事による児童の不安解消に努め、令和5年4月の統合に至ることができた。</p>

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率①/②	実績値②	達成率①/②	
	小学校数	校	8	100%					8

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<p>全国的な少子高齢化が進む中、本市においても人口の減少とともに児童・生徒数が減少している状況である。今後においても、社会情勢や児童・生徒数の推移等を注視し、必要な施策を講じてゆく必要がある。</p>
今後の展開	<p>今後、児童・生徒数の減少により複式学級の発生等が見込まれる場合は、より良い教育環境を維持するため、新たな方針に基づいた再編を検討する。</p>
総合評価	<p>(評価の理由) 統合に必要な課題を整理し、その改善に取り組み、令和5年4月の統合を迎えることができた。</p> <p>A</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	文化課・生涯学習スポーツ課(社会教育課)
----------	-----	----------------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施策名	Ⅱ-1 子どもたちの郷土愛と誇りを育む		
施策の目的	ふるさと山鹿を愛し誇りに思う、将来の山鹿を担う人材を育成することを目的とする。		

1 事業の内容と成果等

事業名	子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業
取組内容	<p>ふるさと山鹿を愛し誇りに思う、将来の山鹿を担う人材を育成することを目的に、小・中学生が山鹿の歴史や偉人等について学ぶ機会を作るため、下記の事業に取り組むこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代史巡回バスでは、小中学生が各地の文化財や資料館の現地をバスで巡った。また、タブレット端末を活用した学習ホームページなどで学びを深めた。 ・本市の小中学生が歴史や文化をテーマとした絵札と読み札を作った「郷土かるた」を小学1年生に配布。 ・清浦奎吾伯のたどった道のりを体験するため「立志の道」を計画した。
成果	<p>本市の小・中学生が、市内各所に残る豊富な歴史文化遺産を通じて、ふるさと山鹿の文化・文化財や先人の業績について知り、その価値に気づくことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代史巡回バスは、市内の全ての小学校6年生と中学校2年生の合計822名が参加。 ・郷土かるたは、小学校1年生を対象とした大会開催を推進したが、コロナ禍で開催できなかった。ただ、地域学校協働活動を通して、鹿本小2年生と地域住民がかかるた大会を開催した。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	立志の道の参加者数	人	-	-	/	/	/	/	50
2	古代史巡回バス参加者の満足度	%	77.8	97%	/	/	/	/	80.0

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・古代史巡回バスは、夏場の現地見学に際して参加者の体調管理に注意が必要。学校の開催希望時期が重複するため調整が必要。 ・コロナ禍においても実施方法を工夫するなど、郷土かるたができる環境づくりが必要である。 ・立志の道は、例年9月に開催しているが、台風シーズンでもあり開催時期を見直す必要がある。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・古代史巡回バス…学校と現地ガイド団体との間で、日程や内容について連絡調整を密にしながら開催していく。 ・郷土かるた…小学校はもちろん、地区公民館での地域住民と子どもの交流や読み聞かせボランティアによる活用など広く推進していく。 ・立志の道…台風接近が少ない時期に令和5年度から変更する。
総合評価	<p>B (評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代史巡回バスについては、目標を達成できており、十分な成果を得ている。 ・郷土かるたについては、鹿本小学校と地域住民が交流し、これからの参考になった。 ・立志の道は、前日中止決定のため、実施できず。

施策評価調書

担当 部課	教育部	文化課(社会教育課)
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施策名	Ⅱ-2 文化財の保存と活用		
施策の目的	本市に残された数多くの貴重な文化財について、保存と活用を両立させることにより、これらの文化財を次の世代に確実に伝え、活用する分野を教育以外にも広げていく。 八千代座(国指定重要文化財)を適切に保存管理し、併せて文化・観光振興に資する活用のために必要な計画を作成し整備を実施する。		

1 事業の内容と成果等

事業名	文化財保存・活用事業、八千代座保存活用整備事業		
取組内容	<p>①文化財保存・活用事業 保存事業として、相良のアイトピカズラ(国指定特別天然記念物)繁茂棚(中央棚)の修理工事を完了したほか、方保田東原遺跡(国指定史跡)指定地の公有地化を進めた。活用面では、チブサン古墳・鍋田横穴群の国史跡指定100周年を記念した企画展やシンポジウム、鞠智城国営公園設置促進期成会でのイベントなどを開催した。 また、藤井地区において、圃場整備(水路の再整備)が予定されている周知の埋蔵文化財包蔵地内で発掘調査を実施した。</p> <p>②八千代座保存活用整備事業 文化庁や熊本県の指導のもと、八千代座の維持管理や活用を進めるための保存活用計画を策定した。木造建築である八千代座のシロアリ被害を防止するため、防除業務を実施した。</p>		
成果	<p>①文化財保存・活用事業 文化財を生かしたイベントは文化財関係団体等の協力を得て進めたことで、多くの市民の参加があった。また、報道等を通じてイベントの様子を発信することで、市内外から本市の文化財に対する関心を高めることができた。 藤井地区の発掘調査は、これまで調査事例の少ない地域での本調査であり、各時代の土器や石器などが出土した。今回の調査によって、山鹿市の多様な埋蔵文化財の一端を明らかにすることができた。</p> <p>②八千代座保存活用整備事業 保存活用計画の策定により、今後は市及び指定管理者、使用者間で共通した認識のもとに八千代座の保存活用に向けた維持補修を進めることが可能になった。</p>		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6(計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	指定文化財等の見学者(八千代座、チブサン古墳、康平寺、出土センター、清浦記念館)	人	32,770	56%					58,500
2	文化財を活かしたイベント等の参加者	人	1,993	93%					2,150
3	八千代座の施設利用者・見学者数	人	37,261	46%					81,000

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を生かしたイベントについては内容のマンネリ化や参加者の固定化が課題である。公有地化を進めている方保田東原遺跡については将来的な整備に向けた取組を進める必要がある。 八千代座については保存活用計画に基づき適切な維持補修を図ることが求められる。 		
今後の展開	<p>国や県、関係機関等と連携して適切な文化財の保存に努めるとともに、イベント等を通じて、山鹿市の文化財の魅力をも市のホームページやSNS、やまがメイトなどを活用して積極的に発信する。 八千代座については防火設備等の改修を進め、保存に万全を期すとともに、これまで以上に活用に関する取組を進める。</p>		
総合評価	B	(評価の理由) 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で事業を進めたが、イベント等を通じて文化財に対する市民の関心を高めることができた。	

施策評価調書

担当 部課	教育部	文化課(社会教育課)
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施策名	II-3 博物館展示等の充実		
施策の目的	郷土の歴史資料等について調査・研究、保存・保管、展示することにより、市全域の歴史や文化、文化財等に接することを目的とする。このためテーマ別の展示活動や講座等を推進するなど、市民に親しまれ子どもたちが集う博物館を目指す。		

1 事業の内容と成果等

事業名	博物館展示事業
取組内容	<p>市内の文化遺産や文化財をテーマとした企画展等を開催した。</p> <p>夏季企画展として、菊池川流域日本遺産の認定5周年を契機として「おもしろ・発見!菊池川」を開催。(7月23日～9月25日、入館者数845人)。</p> <p>秋季企画展として、チブサン古墳・鍋田横穴群が国史跡に指定されて100周年となることを記念して「まもり つたえる 装飾古墳」を開催(10月15日～R5年1月29日、入館者数1,241人)。関連イベントとして、記念シンポジウムを山鹿市民交流センター大ホールで開催(11月3日、180人)。</p> <p>まちなか博物館として、国内の鉄道開設150年を迎えることから「山鹿を走った鹿本鉄道」展を八千代座交流施設で開催。(R5年3月4日～3月13日、744人)。</p> <p>企画展の関連行事として、博物館研修室を会場として夏休み・冬休みワークショップを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代体験ひろば(夏;8月13日、12人。冬;R5年2月26日、25人)。 ・河原の石でオリジナルキャンドル作り(8月28日、17人)。 ・星空観察会(夏;8月27日、21人。冬;12月17日、14人)。 <p>研修講座として、初心者陶芸教室(受講生11名)、自主講座として、竹細工(35名)、古文書(25名)、拓本(13名)を開催した。</p>
成果	博物館を会場とした企画展では、本市の文化財や文化遺産について紹介し、その価値や意義について周知することができた。市民交流センターや八千代座交流施設など中心部の会場でも関連企画を開催し、通常は来館されない方にも本市の多様な文化財の一端に触れていただける機会となった。企画展3回の入館者数の合計は2,830人、関連イベント6回の参加者数の合計は269人であった。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	博物館入館者数	人	4,418	76%					5,800

3 課題と今後の展開・評価等

課題	博物館は昭和53年の開館から40年以上が経過しており、施設が老朽化しているほかバリアフリーに対応できていないことや、展示・収蔵スペースが不足していることなどの課題があり、施設改修等の検討を進める必要がある。
今後の展開	子どもや市民に親しまれる博物館を実現するため、展示事業や関連する講座、イベントについて歴史や文化、自然などに関した内容の充実や展示方法等を工夫する。さらに、古代史巡回バスの実施など学校教育や生涯学習とも連携して、事業の充実を図る。 施設の改修については、広く市民や関係団体の意見を集め、整備方針に関する庁内意見の取りまとめを推進する。
総合評価	<p>(評価の理由)</p> <p>B 企画展や関連イベントの開催により、本市の文化や歴史の価値について周知することができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会教育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施策名	Ⅱ-4 生涯学習の推進		
施策の目的	市民や地域のニーズを反映した各種講座を通して「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる支援を行う。		

1 事業の内容と成果等

事業名	生涯教育推進事業
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯大学講座は、各地域(旧市町)で60歳以上の住民を対象に「安心安全な暮らし」「健康」「山鹿の歴史文化」などの講演や現地研修を通して知識を高め、受講者同士の交流を深めることで、地域づくりにつなげることを目的に実施した。 ・生涯学習講座は、大学教授や地域で活躍している方などを講師に「聞いてとくする」「歴史探訪」「食と健康」などのコースを設けて、受講生が興味を持ち楽しく受講できるよう実施した。 ・初心者向けの学習を基本とした自主講座において、「書道講座」「日本画講座」「生け花講座」「太極拳講座」など受講生自らが運営を行った。また、自主性と意欲を高めるために受講生の募集とあわせて学習の成果発表会の支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯大学講座には受講生として384人の申し込みがあり、延べ1,914人が参加した。 ・生涯学習講座には受講生として165人の申し込みがあり、延べ825人が参加した。 ・自主講座には747人が参加した。また、コロナ禍で中止していた「市民のつどい(ステージ部門)・(展示部門)」を3年ぶりに開催し、受講者が日ごろの成果を楽しく生き生きと発表した。 <p>講座を受けることで知識を得るとともに、受講生同士が楽しく笑顔で交流することは健康維持にもつながっている。</p>

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	各種講座受講生数	人	1,296	88%					1,475

3 課題と今後の展開・評価等

課題	受講生の高齢化による受講者数の減少、受講生が楽しく興味を持てる講座メニューの選定、受講希望者の会場までの交通手段の確保が課題となっている。
今後の展開	市民が幅広く学ぶことができるよう、より多様な分野の講座を提供するとともに、受講者からのアンケートを通して、講座メニューの選定など市民のニーズの把握に努める。あわせて、受講者同士のネットワークを強化し新規受講者のさらなる増加を目指す。
総合評価	<p>B</p> <p>(評価の理由) コロナ禍の中でも対策を強化しながら、講座を開催することで、受講生が楽しく生きがいを持ち受講することができた。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	文化課(社会教育課)
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施策名	Ⅱ-5 文化団体の育成支援		
施策の目的	芸術文化には音楽や演劇、舞踏などの種類があり、そのいずれもが演ずる人や鑑賞する人々に感動や生きる喜びを与えて人生を豊かにするほか、地域社会全体の活性化にも大きく寄与する。このため文化団体間の連携・強化や、郷土芸能団体の活動支援を図ることにより、文化芸術活動の継続や民俗芸能の保存・継承を目指す。		

1 事業の内容と成果等

事業名	文化団体育成支援事業
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の神楽や雨乞い踊りをはじめとする民俗芸能団体に対して資金面から支援するため補助金を交付した。また、市指定無形文化財の「鹿北茶山唄」を市内外に広くPRし、あわせて鹿北茶業の振興に寄与するため、2年ぶり30回目の鹿北茶山唄全国大会を開催した。全国大会についても補助金を交付するほか、鹿北市民センターとともに運営の応援を行い、市全体の宝として周知および活動振興を図った。 市内の芸術文化団体に対して資金面から支援するため補助金を交付した。芸術文化祭における会場設営や撤去など実務面においても開催の応援を行い、文化芸術活動の発展を図った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体への補助金については、市内11団体より申請があり活動運営を資金面からのサポートを行うことができた。 また鹿北茶山唄全国大会については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となったが、県内外から参加をいただき出場者は116名であった。今回の開催により、鹿北茶山唄の普及啓発のみならず、本市特産品「鹿北茶」のPRにもつながった。 山鹿市芸術文化祭については、コロナ禍ではあったが、感染対策をとりながら開催することができ、参加者は1,481名、入場者数は2,600名であった。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			1	文化協会会員数	人	611	76%		
2	民俗芸能会員数	人	321	80%					400

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能会員数の減少が課題としてあげられる。団体の中には小学生に対して神楽指導を行うなど若い世代に普及啓発を行っている団体もあるが、一部にとどまっている。多くの市民に認知してもらうため各団体の芸能を披露する場を設けるほか、市民特に児童・生徒への普及啓発については後継者育成につながる取組を行う必要がある。 文化協会会員の高齢化と会員減少傾向が進んでいることから、根本的な原因を洗い出し、会員だけでなく様々な分野の意見も聞きながら計画的に協会の活性化と会員増加を図っていく必要がある。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中、コロナ禍以前の活動が継続できるように、資金面での支援を従前のおり行っていく。また練習の成果を発表する場として「民俗芸能発表会」を開催することで、多くの市民に目を向けてもらうとともに、保存継承させていこうという意欲の醸成を図っていく。 文化協会の会員・活動を維持するため、資金面での支援を行っていくほか、文化振興計画立案の中で文化協会活性化に向けた意見を様々な分野から聴取し、計画に反映させていく。その一方で、組織の一本化や会員減少など解決できていない課題に対して文化協会と共に対応していく。
総合評価	<p>C (評価の理由)</p> <p>民俗芸能については会員数が減少しているため、今後は後継者育成や民俗芸能団体の活動について広報を積極的に行う必要がある。</p> <p>文化協会については会員の維持ができず減少している。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会教育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
	みらい彩る		豊かなコミュニケーション能力の育成
施策名	Ⅱ-6 読書活動の推進		
施策の目的	乳幼児から高齢者まで全ての世代が読書に親しみ、感性を磨き、知識を高め、思考力やコミュニケーション力の向上につながる読書活動のための環境を整備する。 また、様々なニーズに対応できる図書の充実を図り、特徴ある図書館・図書室を整備する。		

1 事業の内容と成果等

事業名	夢の「とびら」をひらく事業		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4か月検診及び1歳6か月検診を対象に、親子で読書に親しむ読み聞かせのアドバイスや絵本をプレゼントするブックスタート事業及びブックスタート・プラス事業を行った。 ・図書館の利用が困難な地域や高齢者施設などに移動図書館車を運行し、図書の貸出しを行った。 ・気軽に図書館へ来館できるよう「読書フェスタ」「リサイクルフェア」「お話し会」などのイベントを行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4か月検診(ブックスタート事業)には274件、1歳6か月(ブックスタート・プラス事業)には319件絵本を配布し、親子で図書に親しむ環境を推進した。 ・保育園、幼稚園、小中学校など施設66か所に移動図書館車を運行し、本を貸し出したことで、保育・幼稚園での読み聞かせができた。 ・コロナ禍でも気軽に図書館へ来館できるよう「読書フェスタ」「リサイクルフェア」「お話し会」などのイベントを人との接触がないよう規模を縮小し実施したが576人の参加があり、来館者に好評であった。 		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			1	公立図書館・図書室利用者延べ人数	人	66,908	84%		
2	図書館・図書室個人貸出数	冊	262,019	82%					320,000

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<p>コロナ感染は減少しているものの、令和4年度においては読書活動推進のための各種イベントが縮小・中止を余儀なくされ、利用者数が伸び悩んだ。 今後、様々なイベントを通じた読書に親しめる環境の整備とあわせ、「広報やまが」や「やまがメイト」などの活用による市民へ周知を図る等、読書のきっかけづくりが必要である。</p>		
今後の展開	<p>図書館の利用をより一層促すため、地域振興公社や高校など関係団体と連携しイベントを計画し、市民への読書情報発信の強化に努める。また、家庭や学校などにおける読書推進のため、おはなしボランティアグループと連携し、読み聞かせの出前講座などを行う。</p>		
総合評価	B	<p>(評価の理由) コロナ禍でイベントなど規模縮小が続いたものの、来館者が戻りつつあり、読書活動の推進につながっている。</p>	

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会教育課)
----------	-----	-------------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施策名	II-7 公民館活動の推進		
施策の目的	公民館活動を通して地域の活性化を推進するための支援を行う。地区公民館の活動を支援し、地域コミュニティの維持・存続を図る。 また、自治公民館の改修補助、地区公民館の長寿命化事業による活動拠点の整備を図る。		

1 事業の内容と成果等

事業名	地域学校協働活動事業、地区公民館地域づくり講座事業		
取組内容	<p>①地域学校協働活動事業 12地区公民館指導員が市内小中学校と地域との橋渡し役(地域学校協働活動推進員)を担い、地域住民が学校へ、小中学生が地域へと互いに支援協力活動を行うことにより、地域で子どもの成長を支え、かつ、地域の活性化につながる活動を推進した。</p> <p>②地区公民館地域づくり講座事業 地区公民館が地域にあった講座を開催し、地域の自然や文化を再確認し、特色を生かした地域づくり・人づくりを推進した。</p>		
成果	<p>①地域学校協働活動事業 地域住民やボランティアによる小中学校への協力として「登校の見守り」「書道の指導」「絵本や紙芝居の読み聞かせ」「家庭科の縫製指導」「学習〇付け」「職業講話」などを、小中学生による地域への協力として「花壇の整地・花植え」「地域祭りへの参加」「地域文化祭での発表」「農作業体験」「地域伝統芸能への参加」などを協働活動として実施することにより、交流による地域と学校の活性化につながった。</p> <p>②地区公民館地域づくり講座事業 8地区の公民館指導員がそれぞれの地域で中心となり、「防災食作り研修会」「星空観測会」「ランタンづくり」「親子料理教室」「ノルディックウォーキング」など地域の特色を生かした11講座を開催し、延べ861人の参加があり、地域づくり・人づくりにつながった。</p>		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
地区公民館利用者数	人	80,218	125%					64,300	

3 課題と今後の展開・評価等

課題	令和4年度の地域学校協働活動では小学校10校、中学校5校と12地区公民館で協働活動事業を行っていたが、小学校2校(平小城小、三岳小)が閉校したため、その地区公民館との活動が令和5年度から従来のようにできなくなる。		
今後の展開	閉校した2校は山鹿小学校に統合するため、令和5年度からは、山鹿小学校と4地区公民館(山鹿、川辺、平小城、三岳)と事業についてお互いが無理のない活動ができるよう協議し、地域学校協働活動を推進していく。		
総合評価	A	(評価の理由) コロナ禍の中でも感染対策を強化し、公民館指導員の活動で地域学校協働活動事業、地域づくり講座事業が実施でき利用者数の増加につながった。	

施策評価調書

担当 部課	教育部	子ども課
----------	-----	------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	子育て世代の育児支援と健やかな成長応援
施策名	II-8 保護者の就労支援への取組		
施策の目的	<p>○就労等により昼間家庭に保護者がいない子どもや、疾病、介護等により昼間家庭で養育ができない子どもを対象として、平日の放課後や長期休業期間等に適切な遊びと生活の場を提供するとともに、保護者の仕事と子育ての両立を図る。</p> <p>○病気の回復期にある児童を一時的に預かることにより、保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成を図る。</p>		

1 事業の内容と成果等

事業名	放課後児童健全育成事業、病後児保育施設整備事業
取組内容	<p>①放課後児童健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各放課後児童クラブの育成費等について、ガイドラインに基づいた運営の促進を図った。 発達障がいを含む障がい児の児童クラブへの受入れや受入れ後によりよい対応を行うために研修会を実施した。 育児休業期間の児童クラブの受入れについて整備した。 <p>②病後児保育施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用実績:利用申請件数 165件(うち利用件数 119件・お断り件数 46件) 年度当初は新型コロナの初期症状と似ている「上気道炎」の受入れを制限していたため、利用者数が伸びなかったが、その後は民間病後児施設と、上気道炎も受け入れ対象と整理したことで利用数が増えた。
成果	<p>①放課後児童健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児休業期間の受入れを令和5年4月から実施できるよう整備し、子育て世帯の負担軽減につながった。 放課後児童クラブの支援員を対象に年5回の研修会を開催し、支援員の資質向上に努めた。研修は現場での実践につながる内容に努め、受講者からの意見も概ね好評であった。 <p>②病後児保育施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染流行の波が複数回押し寄せた新型コロナであったが、病後児保育室ではリスクレベルに応じ対応することで、施設内での感染を防ぐことができた。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	目標値①
1	学童保育利用者数	人	731	112%					650
2	病後児保育施設利用者数	人	110	15%					710

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化やクラブ実施団体の占用施設でないといった課題があり、対応が必要となっている。また全体の3分の1が任意団体による運営であるため、法人化を促進する必要がある。 病後児保育施設利用希望者の受入率が9割程度であり、全ての希望者を受け入れることができなかった。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブ法人化促進のため、任意団体との協議を進める。 令和5年度から、熊本市との連携中枢都市圏の連携協約により、熊本市と山鹿市の病後児施設の相互利用が可能となるほか、山鹿市で3箇所目となる病後児保育室が開設されたことから、周知の徹底を図り、利用希望者の受入率増加につなげる。
総合評価	<p>B</p> <p>(評価の理由) 放課後児童クラブについては、利用を希望する児童をすべて受け入れることができた。また、病後児保育室については、コロナ禍の影響で利用者が減少した。</p>

施策評価調書

担当 部課	教育部	子ども課
----------	-----	------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	子育て世代の育児支援と健やかな成長応援
施策名	II-9 子ども・子育て世代への包括的な支援		
施策の目的	<p>○妊娠期から18歳までの子どもを対象に関係機関と連携し、子育て家庭にとって身近な場所で、子育てに関する情報の提供、相談・援助を行い、地域の子育て支援事業を円滑に利用できるようきめ細かな支援を行う。また、育児不安の軽減や孤立感の解消に努め、地域全体で子育て支援の基盤の形成を図る。</p> <p>○18歳までの子どもとその保護者に対し、教育・福祉・育児等の相談をワンストップで受け、関係機関との連携や協力により、問題の早期解決を図る。</p> <p>○発達障がいなど特別な支援を要する子どもをはじめ、どの子ども生き生きと輝くための支援の研修等を行い、保育士や保育教諭、幼稚園教諭の意識や資質の向上を図る。</p>		

1 事業の内容と成果等

事業名	「子育て世代包括支援センター」事業、子ども総合相談窓口事業、地域子育て支援センター拠点事業、特別支援教育・保育事業		
取組内容	<p>①「子育て世代包括支援センター」事業 妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援をおこなうため、利用者支援「基本型」と「母子保健型」において、関係機関と連携し、保護者や子どもに寄り添ったサポートを実施した。</p> <p>②子ども総合相談窓口事業 おおむね18歳までの子どもや子育てに関するあらゆる相談や悩みに対し、関係機関と連携して総合的、専門的な支援を行った。</p> <p>③地域子育て支援センター拠点事業 各子育て支援センターにおいて、地域の実情に応じた講習・講座の開催や、利用者の身近な場所で子育て世代が気軽に集い、情報交換できる場を提供し、育児不安の解消を図った。</p> <p>④特別支援教育・保育事業 インクルーシブ保育コーディネーターの育成に、「自主研究会」として取り組み2年目となった今年度も、コロナ禍を見据えて6月・9月・1月の年3回研修を実施した。これまで同様、関係機関の相談員等の協力を得ながら、公立園のコーディネーターがリーダーとなり、私立保育園等の職員を対象に研修を開催した。</p>		
成果	<p>①「子育て世代包括支援センター」事業 「あかり会議」の開催や、関係機関との連携を図りながら子育て世代の実情を把握し、妊娠期から子育て期における必要な子育て支援情報を切れ目なく提供することができた。</p> <p>②子ども総合相談窓口事業 問題の早期解決に向けた関係機関との定例会議を週1回開催し、情報の共有と連携の強化を図った。</p> <p>③地域子育て支援センター拠点事業 コロナ禍の利用制限により利用者数は減少したが、子育て世代包括支援センターとの連携や訪問等により子育てに関する情報の提供、相談・援助を行い、育児不安の解消を図った。</p> <p>④特別支援教育・保育事業 殆どの参加者が継続メンバーで、積極的な意見交換等、コーディネーターの役割への理解が高まってきた。</p>		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	子育て支援センター利用者数	人	7,345	38%					19,500

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭総合支援拠点機能を併せ持つ「こども家庭センター」の設置に伴い、体制の構築を検討する必要がある。 今年度は保育相談員を確保できなかったため、保育相談の対応が十分でなかった。 コロナ禍により、利用者同士の交流を図ることができなかった。 		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「こども家庭センター」の設置により、子ども家庭総合支援拠点担当者との情報共有を図り、更なる支援の充実を図る。 保育相談員を確保し、保育相談に対応できる体制を整える。 新型コロナウイルスが5類への移行に伴い、感染対策を十分行っただけで利用者同士の交流の場を設ける。 保育所等と家庭や療育機関との連携による支援を充実させる。(3歳児健診前の保健師との要支援児に関する情報共有等) 		
総合評価	B	(評価の理由) 全事業を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、概ね計画に沿った取組ができた。	

施策評価調書

担当 部課	教育部	文化課(社会教育課)
----------	-----	------------

基本方針	みらい彩る	基本目標	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
			SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施策名	Ⅲ-1 山鹿創生塾		
施策の目的	これまでの長い歴史に培われた伝統や文化、市民の気質等を礎にして、活力あふれる“ふるさと山鹿”を築くとともに、市民の夢と希望を形にする「山鹿創生」を実現するため、山鹿を元気にし、将来の山鹿を担う人材の育成を目指す。		

1 事業の内容と成果等

事業名	山鹿創生塾事業		
取組内容	市内の中学生・高校生を対象として標記の「山鹿創生塾」を実施した。		
	<p>第1回 11月6日(日)井口裕二氏(木屋本店)「老舗麴屋の一日」</p> <p>第2回 11月13日(日)中島賢一氏(福岡eスポーツ協会)「eスポーツで未来が変わる」</p> <p>第3回 12月24日(土)江里口匡史氏(元陸上競技選手)「ロンドン五輪出場と今」</p> <p>第4回 1月28日(土)瀬口 力氏(株式会社リブワーク)「家づくりの常識を覆す」</p> <p>第5回 2月25日(土)市原 邦彦氏(株式会社パストラル)「ご当地アイスができるまで」</p> <p>第6回 3月11日(土)振り返りのグループワーク</p>		
成果	<p>創生塾では、各界で活躍されている本市に関係の深い方々を講師として招き、その生き様について学ぶことで、参加者自身の将来や今後進むべき山鹿の未来について、自ら考える機会を提供することができ、延べ134名が参加した。</p> <p>また、一方的に講師の話聞くだけでなく、講師に質問をしたり、ワークショップ形式での意見交換を実施するなど、参加者が主体的に参画することで参加者の気づきや学びを得る場を作ることができた。</p>		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	山鹿創生塾参加者の満足度	%	98.8%	124%					80.0

3 課題と今後の展開・評価等

課題	<p>募集期間までに事業内容を具体的に示して、参加することで得られる学びについて明確にすべきであった。グループワークではグループ内での会話に慣れるまで時間がかかったため、学校や学年を考慮した配置が望ましい。さらに、スタッフはグループ内に1名配置して一緒にワークに取り組む方法も効果的と思われる。</p> <p>今回の対象者は中高生としたが、各回のテーマやグループワークが高校生向けの内容となり、中学生には少し高度なものであった。また、開催日を土曜日と日曜日の午後としたが、部活動や課外授業など他の行事で参加できない申込者が多かった。</p>		
今後の展開	<p>今年度の最終回「振り返りのグループワーク」では今後の山鹿創生塾のあり方について多くの意見が出され、中でも体験型の内容についての要望が目立ったため、来年度は体験型の企画とする。また、講義形式にとどまらず、参加者にとって主体的な学びの場となるよう、中高生が興味を抱くテーマを設定し、チームが一体となって作品づくりに取り組むような内容にブラッシュアップしていく。</p>		
総合評価	A	<p>(評価の理由)</p> <p>目標値を超える実績値を得た。 目標は達成できているが上記の課題もあるため、必要に応じて事業内容等の見直しを検討する。</p>	

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課(社会教育課)
		学校教育課(教育総務課)

基本方針	みらい彩る	基本目標	豊かなコミュニケーション能力の育成
施策名	Ⅲ-2 国際理解教育の充実		
施策の目的	○グローバル化に対応する人材育成のため、青少年等に国際交流の機会を提供する。 ○高齢者が英会話を学ぶことで「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる国際交流を目指す。 ○令和2年度から小学校5・6年生で外国語が正式に教科となり、小学校3・4年生では外国語活動が導入されたことを踏まえ、学習環境を整備し、小中学校における外国語教育の充実を図る。		

1 事業の内容と成果等

事業名	国際交流事業、生涯教育推進事業、外国語指導事業
取組内容	①国際交流事業 姉妹都市であるオーストラリアのクーマとの交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により、往来しての交流は中止しているが、令和4年度はモノロ高校生とのオンライン交流事業を実施した。中学生を対象に募集を行い、22名が参加しALTの協力を得、8月に実施した。生徒自らが作成した映像の紹介等を英語で行った。
	②生涯教育推進事業 今年度から、毎年開催している生涯学習講座に市内小中学校で英語を指導しているALT(外国語指導助手)講師によりクイズやカントリーミュージックを取り入れた英会話講座に60歳以上の受講生14名が参加した。
成果	③外国語指導事業 ・ALT11名を小中学校へ配置し、ネイティブスピーカーの発音に触れさせるとともに実践的な外国語の授業に努めた。 ・教職員の外国語及び外国語活動に関する指導力の向上をねらい、教職員に対する英会話教室(小学校対象)及び授業づくり相談会(中学校対象)を開催した。(講師はALT) ・外部英語検定試験において、中学3年生の受験者の受験費を年に1回分全額補助した。
	①国際交流事業 派遣交流事業は中止となったが、オンライン交流では中学生が海外の同年代の学生と英語で会話をする貴重な経験を得る機会となった。
成果	②生涯教育推進事業 受講生は楽しく受講するとともにALTとのコミュニケーションで英語はもちろん異文化への興味を高めた。
	③外国語指導事業 ・他の市町村と比べ、小・中学校の児童生徒の「英語が好きである」と肯定的に答えている割合が非常に高かった。 ・小学校での英語の授業研究・実践が活性化しており、児童の話す力につながっている。 ・英検の受験者が少しずつ増加し、中学3年生の3学期に3級合格を取得する生徒が若干増加した。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			1	熊本県学力学習状況調査平均正解率を上回る学校の割合(英語)	%	80.0	87%		
2	CEFR A1レベル(英検3級相当)の中学校3年生取得率	%	29.9	85%					35.0

3 課題と今後の展開・評価等

課題	・派遣交流事業について、民間主体での交流を推進していく必要がある。 ・ALT講師の確保と担当部署の協力が必要である。 ・英検を受験する生徒の数が伸びないため、受験者の総数を増やす工夫が必要である。 小学校と中学校の接続の部分に課題があり、「書く」活動が増える中学1年生への指導方法の研究と英語嫌いを増やさないための指導方法の研究を進めていく必要がある。
今後の展開	・オンライン交流事業を継続するとともに、派遣交流事業についてはその手法、在り方について検討していく。 ・今年度、ALT講師による生涯学習講座は1回の開催であったが、次年度は4回に増やし受講生の英語への興味とコミュニケーション能力をさらに高める。 ・英語「話すこと」のテストに対応できるように、タブレットでも練習できる環境をつくる。 次年度は英語検定試験ではなくGTEC(英語4技能テスト)を採用し、CEFR A1(英検3級相当)レベルの達成者が正確に把握できるようにする。
総合評価	(評価の理由) 目標を100パーセント達成はできていないが、授業改善を継続的に行い、学習環境を整えていく中で、着実に力をつけている。タブレット等を使った個に応じた家庭学習にも工夫が見られるようになっている。

B

4 教育委員会の主な活動状況

(1) 教育委員会会議

教育委員会会議には原則として毎月開催される「定例会」と、必要に応じて開催される「臨時会」があり、令和4年度は定例会12回、臨時会1回を開催し、教育行政の基本方針・施策等について協議・議決を行いました。

種別	開催日	主な議案等
定例会	令和 4年 4月 21日	教育委員会が委嘱する委員等／旧山内小の民間譲渡
定例会	令和 4年 5月 23日	6月補正予算／教育委員会が委嘱する委員等／山鹿市中学校における部活動の方針
定例会	令和 4年 6月 28日	6月定例会／教育委員会が委嘱する委員等／点検評価報告書
定例会	令和 4年 7月 21日	教職員の働き方改革の基本方針／旧山内小学校利活用候補者選定
定例会	令和 4年 8月 22日	9月補正予算／財産（スクールバス）の取得／点検評価報告書
定例会	令和 4年 9月 21日	9月定例会／奨学生選考結果
定例会	令和 4年 10月 24日	小・中学校小規模特認校就学申請者審査結果／山鹿創生塾
定例会	令和 4年 11月 21日	12月補正予算／工事請負契約の締結／財産の処分
定例会	令和 4年 12月 21日	第4次山鹿市読書活動推進計画／二十歳のつどい
定例会	令和 5年 1月 24日	第4次山鹿市読書活動推進計画／閉校記念式典／中学校部活動の地域移行
定例会	令和 5年 2月 22日	3月補正予算／R5年度主要事業／不登校児童生徒の「指導要録上の出席扱い」に係るガイドライン
臨時会	令和 5年 2月 24日	教職員人事
定例会	令和 5年 3月 22日	3月定例会／例規等の改正／指定文化財の指定の諮問

(2) 総合教育会議

総合教育会議は、市長と教育委員会が教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置などについて協議・調整を行う場で、令和4年度は2回開催しました。

	開催日	協議事項等
第1回	令和4年10月24日	文化振興施策について
第2回	令和5年2月22日	「選ばれる山鹿」の教育について

(3) 学校訪問の実施状況

山鹿市教育委員会学校教育指導の重点を踏まえた学校教育目標・努力点の具体的な実践状況を把握し、その推進を図るとともに、各学校の学校経営や教育指導の支援に資するため、教育委員、事務局職員及び教科研究員等で学校を訪問しています。

令和4年度は、15校全ての学校への訪問を実施し、指導・助言を行っています。

(4) その他の活動状況

(学校関係)

- ・山鹿市立小中学校の入学式、卒業式、運動会、体育大会等
- ・小中学校あいさつ運動（毎月2回）
- ・園長・校長会議
- ・教科用図書選定調査委員会
- ・小中研究発表会

(他教育機関の視察・研修等)

- ・全国都市教育長協議会定期総会
- ・九州都市教育長協議会定期総会及び研究大会
- ・市町村教育委員会研究協議会
- ・熊本県都市教育長協議会会議
- ・熊本縣市町村教育長研修大会
- ・熊本縣市町村教育委員大会